

## 共に健康に生きる社会（保健体育科）

三重大学教育学部附属中学校 教諭 稲垣友裕

### I はじめに

本研究を進めるにあたって、教科の目標達成に必要な資質能力と、国立教育政策研究所が ESD に関して提唱する「③多面的、総合的に考える力」「④コミュニケーションを行う力」とが関連していると考えられる。なぜならば、「③多面的、総合的に考える力」は、自己の課題解決の活動や社会の課題について考える活動で必要になる力であり、「④コミュニケーションを行う力」もコミュニケーションを行いつつ仲間と課題を共有し取り組んでいくことは、課題の解決の過程にも大きな影響を及ぼすと考えられるからである。そしてそのような活動で養った力は本校の研究主題にもある「社会の変化に対応できる生徒の育成」にもつながっていくと考える。

また、教科の学習を進める中で、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養うための学習指導計画や、ESD の視点に立った学習目標を意識し、ほかの教科との関連性を把握した授業を構成していく。さらに保健体育科の授業の中におけるつながりだけでなく、今まで学習した他教科の学習内容との関連づけができる、生徒の意識の変容をねらっていききたい。

### II 実践の概要

- ①実施日時：2018年2月（全4限）
- ②実施場所：附属中学校第3学年各教室
- ③授業概要

3年生の保健体育科（保健分野）では、年間を通じて「健康な生活と病気の予防」を学習している。その中でも最後に学習する単元が本実践の単元である「共に健康に生きる社会」である。

世界保健機構（WHO）は、健康を「病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」と定義している。また、憲章前文の中には、「最高の健康水準を確保することは、人種、宗教、政治的信条、経済状態のいかんに関わらず、すべての人間の基本的な権利である」と述べている。これらのことから、健康を保持増進するためには、個人の努力はもちろん、それを援助したり補ったりする社会的な活動が必要であるということをおおいに授業実践を行ってきた。

本実践では、「共に健康に生きる社会にするために、自分たちができること」を考えることを課題に iPad を用いた調べ学習やグループワークをもとに授業を進めていった。

### Ⅲ 授業の実際

#### ■健康を守るための社会的な活動について知る

授業は、各教室で行った。はじめに、健康を守るための社会的な活動について、教科書をもとに学習した。その中でも、「個人の努力と社会的な活動とが合わさって初めて、集団の健康水準が高まる」というところを重点的におさえるようにした。

また、世界の人々の健康を守るための活動として、阪神・淡路大震災の時の外国からの支援の様子や、スリランカでの井戸掘り、マラウイでの健康に関する教育などの活動が行われていることを紹介した。

#### ■グループ活動

共に健康に生きる社会にするために、自分たちにはどのようなことができそうか。①自分自身や家族の健康のため、②友人や身の回りの人々の健康のため、③地域や日本、外国の人々の健康のための3つの視点から自分たちができそうだと思うこと、してみたいと思うことなどを考えさせ、グループごとに画用紙にまとめさせた。グループは4人とし、インターネット等で調べることもできるようにグループに2台ずつiPadを渡した。

#### ■振り返り

最後に個人で振り返りの活動を行った。共に健康に生きる社会にするためにどうしていくのが良いかについて、感想用紙に書かせた。何人かの感想を発表し、授業を終えた。

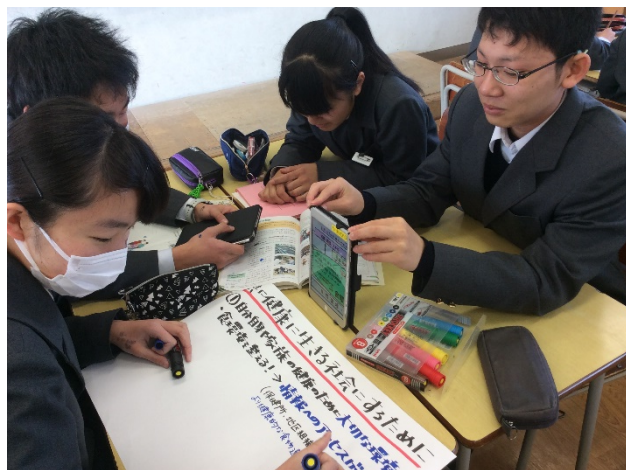
### Ⅳ 授業の様子



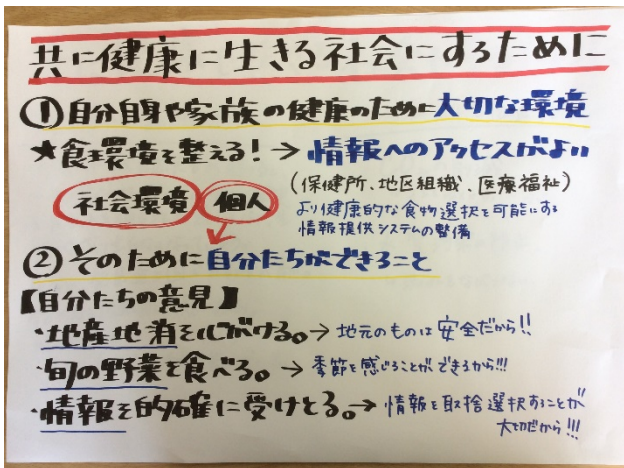
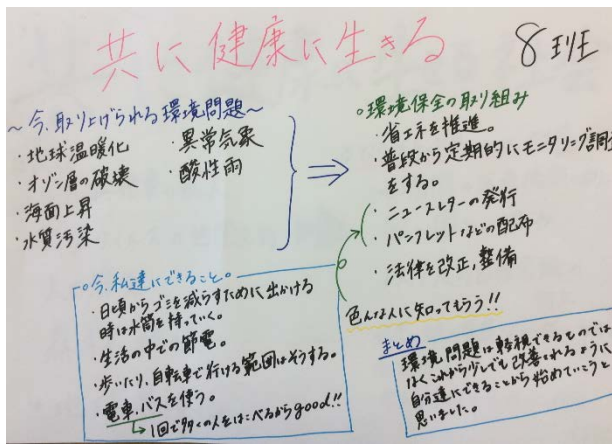
社会的な活動について知る



iPadを用いた調べ学習



班でまとめる



## V 生徒の感想

- ・個人の努力だけでは、共に健康に生きる社会にしていくことが難しい。国境を越えて支援し合うことが大切だと思った。
- ・生活環境が悪く、健康に過ごせていない国がたくさんあることを知った。地球という規模で環境について取り組んでいかないといけないと思った。
- ・自分たち一人ひとりの行動を変えることで、世界の健康に役に立つこともあると思った。今日からできることから始めていきたい。

など

## VI おわりに

今回、保健体育科の保健分野を持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養うための学習指導計画や、ESDの視点に立った学習目標を意識して授業実践を行った。生徒の様子や感想から、保健の授業内容に環境教育という視点を与えることで、生徒が国際的な視点で考えることができるようになったという成果が得られた。

また、授業実践する自分としての成長も感じられた。各教科の学習内容をただ教えるというだけの学習計画ではなく、ESDや環境教育からの視点で授業を組み立てることができた。その中で、他教科とのつながりや関連性も考えていくことができた。

今後は、他教科との関連性をより深めていき、コラボ授業に取り組んでいくなど、より教科横断的な学習により、生徒

がより深く学べる授業にしていきたい。